



戦争あかん! 憲法守ろう!

扇町公園に5千人が参加

5月3日、扇町公園にて「輝け! 憲法 平和といのちと人権を」おおさか総がかり集に、5000名が参加し開催された。

オープニングはMASAさんなどライブで盛り上げ、丹羽徹氏(大阪憲法会議・共同センター)から開会あいさつがあり、メインスピーチとして2003年からNGO「ピースボート」に加わり、共同代表している川崎哲さんから「終わりの見えない戦争、平和をどう創り出すのか」として5点のポイントとして分析した内容を話された。

1点目は軍事力は競争を生み、軍拡競争になる。2点目は軍拡が

奪う資源と機会の問題で、世界で2.5兆ドルの軍事費が費やされており、その4分の1はアジア太平洋地域であり、犠牲になっているのは私たちの生活。3点目は抑止力の強化、この抑止力というもの、本当に国際法上問題ないのかと違法性はないのかということ、をきちっと問わなければいけない。

最後に、「軍事力は何ら問題を解決しないということ。戦争で何か解決したことがあったでしょうか。例えばイラクやアフガニスタンで、アメリカは20年間テロ戦争というものをやって、最終的に両国から引き上げて両国は未だに混乱の中にあります。私たち1人

ひとりが平和の大切さというその話題を声に出してください。声に出すことで必ず響く人がいます」と訴えた。集会終了後、2コースに分かれてデモ。わたしたち労組関係は中崎町コースで市民に平和と憲法を守ろうと声を挙げ、デモを貫徹した。(メインスピーチ全文はQRコードから参照)
(副委員長 陣内 恒治)



ピースフェスタinおおさか

5月12日(日)、いくのパークにて「ピースフェスタinおおさか2024」が小雨模様の中でしたが、総勢約700名もの参加で賑わいました。

半年前から労働組合や市民団体が実行委員会を形成し、議論を重ね、歌や踊りを通じて平和を願うイベントで、今年で2回目の開催となりました。計9組のライブステージと合わせて、20を超える模擬店や様々な展示を行いました。

私たち全港湾は「平和なくして労働運動なし」という精神のもと、日々の運動を展開しています。

日本では、沖縄基地問題に始まり、空港・港湾施設の兵站基地問

題、台湾有事や朝鮮半島ミサイル攻撃で恐怖を煽り、軍拡化に向かう現政府の方針に、断固として反対の声をあげなくてはなりません。



国内のみならず近年世界では、2年前のロシア軍のウクライナ侵攻が始まり、現在でも解決してはいません。また、現在イスラエル軍のガザ地区侵攻により多くの

の命が奪われています。世界中の一般市民は例外なく平和を願っているに違いありません。私たち1人ひとりの声や力は弱いですが、労働組合という組織力があります。これまでの平和運動を継承しつつ、新しい取り組みによって一般の人たちや後の世代にも共有してもらおうと、さらなる行動によって世界平和の一端を担う運動を続けていきましょう。(書記次長 横山 貴安基)



発行 大阪市港区築港1-12-27 全日本港湾労働組合関西地方大阪支部 発行責任者 國分仁昭



第95回中之島メーデー開催

執行委員長 小林 勝彦

5月1日、中之島公園剣先広場にて第95回中之島メーデーが開催されました。当日は小雨が降り肌寒い天候ではありましたが、「戦争やめろ!物価高を打ち破る賃上げを!」をスローガンに支部148名を含め400名が参加されました。

集会の冒頭、わたくし、本年度の事務局(主催団体)である全港湾大阪支部を代表して小林より、

- ①「春闘」—— 大手企業のみのも満額回答、官製春闘に頼ることなく闘う。
- ②「労働組合弾圧」—— 関生支部弾圧は、未だ対岸の火事と捉えている最大労組連合にも影響が出る。
- ③「市民弾圧」—— 北海道での首相遊説ヤジ排除、8.6広島集会での不当逮捕・拘留弾圧が戦争する国作りへ繋がる。
- ④「労働組合の弱体化」—— 抗議・

デモ・ストライキをやらない事が労働組合の権利を失い弱体化していく。以上①~④の提起をしました。その後、各団体挨拶、政党・議員挨拶を経て闘争・争議報告があり、支部からは大和運輸分会、梅南鋼材分会、大阪メトロ分会より決意を込めた報告がありました。終了後は、梅田HEP前まで声高らかにデモ行進を行い、道行く市民にアピールをしました。

